

英語の教材にみられる「異文化理解」

日本の英語教育における異文化理解の扱いは、言語教育政策・学習指導要領の変遷とともに変わってきている。



愛知教育大学 名誉教授
高橋美由紀

小学校から必修科目に

グローバル化の進展に伴って、2014年10月、文部科学省はグローバル化に対応した以下の5つの英語教育改革の提言を公表した。

- 改革1. 国が示す教育目標・内容の改善
- 改革2. 学校における指導と評価の改善
- 改革3. 高等学校・大学の英語力の評価及び入学者選抜の改善
- 改革4. 教科書・教材の充実
- 改革5. 学校における指導体制の充実

提言の背景には『英語教育の在り方に関する有識者会議』で審議されてきた、「英語力の一層の充実はわが国にとって極めて重要な問題だ。これからは、国民一人ひとりにとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる」などの審議があったことが挙げられる(2014年9月26日『同会議資料』)。

これを踏まえて、2017年から順次小・中・高等学校と学習指導要領の改訂が行われた。英語が小学校3・4年生では「外国語活動」として必修となり、小学校5・6年生では「教科」として導入された。これにより、日本の英語教育は小・中・高を通じて一貫した目標を設定するとともに、内容の改善が行われ、文部科学省検定済教科書も改訂された。

同時に、異文化理解については、「コミュニケーションの道具としての英語を使い、英語を通して異文化を理解する力」だとして、「学び

に向かう力、人間性等の^{かんよう}涵養」が目標として掲げられている。

英語教育にみられる「異文化理解」とは。代表的な教材を例にみていきたい。

小学校外国語活動『Let's Try! 1/2』

小学校(3・4年生)外国語活動の「学びに向かう力、人間性等の涵養」に関わる目標は、「外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと」と示されている(学習指導要領解説)。

『Let's Try!』は、新学習指導要領に対応して文部科学省が作成した教材である。

『Let's Try! 1』“Unit 1 Hello!”では、世界の国旗と民族の異なる子どもたちが手を振り「こんにちは！」と母語で挨拶している。



(『Let's Try! 1』Unit 1 Hello! ; p2-3)